

失われた街 鮎川信夫



霧の階段の彼方に消えた幻影の人が
40年後、未発表詩を携えて[失われた街]に甦る

失われた街



著者——鮎川信夫

発行者——小田久郎

発行所——株式会社思潮社 東京都新宿区市谷砂土原町三―十五 電話二六七―八一四一

印刷所——相良整版・福田印刷

製本所——美成社

発行日——一九八二年十二月十日

定価——一八〇〇円 1092-200050-3016

失われた街 鮎川信夫



霧の階段の彼方に消えた幻影の人が
40年後、未発表詩を携えて[失われた街]に甦る

に連載していたエッセー「失われた街」が、完結した。

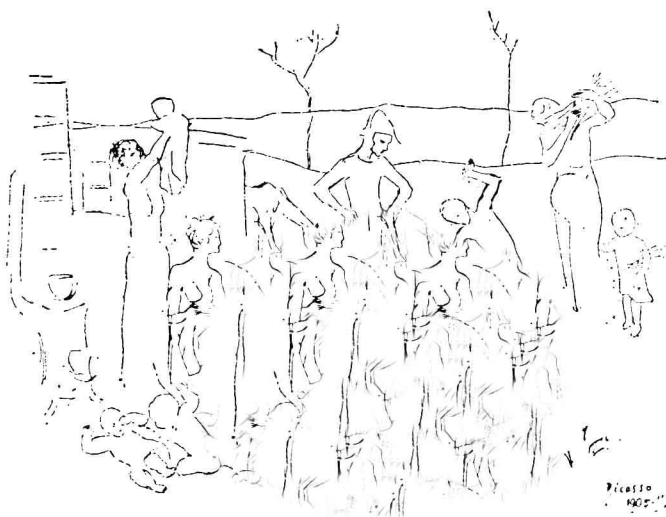
いま、仮にエッセーと書いたが、大岡昇平が中原中也の評伝を小説「朝の歌」として発表したひそみにならえば、「失われた街」も小説と称して一向に差しつかえないだろう。そのくらい体裁のととのった文章なのだが、この「小説」で中原中也に当たるのは森川義信である。

昨年末、森川の未発表の詩七編が見つかった。事件から筆を起こし、森川ら昔の「荒地」の仲間がたむろした新宿の「失われた街」への散歩から、一転して森川、鮎川、T嬢の一種の三角関係に及ぶ。さらに森川が二十二歳のころに書いた「勾配」についての鮎川の新見解が披露される。「勾配」には森川のT嬢に対する恋愛感情が封じこめられているとし、「人を愛することに必死だった独創的な詩人の、やむにやまれぬ個の苦闘が、世代に共通する普遍相と見事なまで一致することで」、「勾種の三角関係作品になったと結論づけている。のころに書いた川の狂死説を冷静に否定するな見解が披露さる友情には感動を誘われる。最対する恋愛感だ。





失われた街 | 鮎川信夫



VIII. *Les saute-moutons*. 1905

三、四才の頃の森川義信



徴兵検査のあと——昭和十五年の森川義信



昭和十三年四月、早稲田第二高等学院

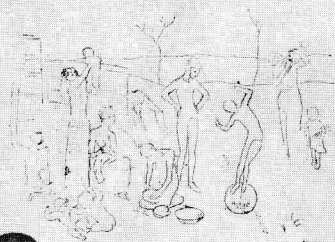


昭和十四年三月頃、早稲田構内での森川と鮎川



地荒

五月號



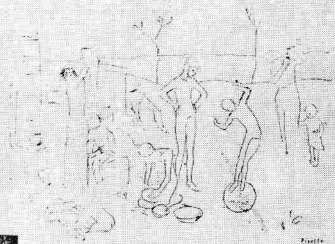
YB Eco. reformkongress 1935

Proletat
1935

2

地荒

三月創刊號



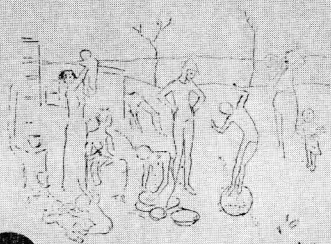
YB Eco. reformkongress 1935

Proletat
1935

1

地荒

七月號



YB Eco. reformkongress 1935

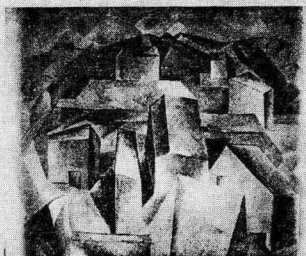
Proletat
1935

3

「荒地」三月創刊號——昭和十四年三月一日發行
 「荒地」第二輯——昭和十四年五月一日發行
 「荒地」第三輯——昭和十四年七月五日發行

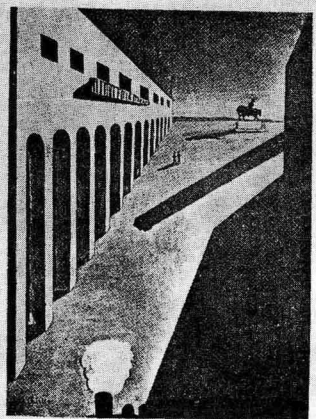


荒地



4

文藝思潮



第六輯

「荒地」第四輯——昭和十四年十一月一日發行
 「荒地」第五輯——昭和十五年五月五日發行
 「荒地」改題「文藝思潮」第六輯——昭和十五年十二月十五日發行

4
配

本林川美信年譜

五十七年 〇月 一 日

香川縣三豐郡栗井村左三二五四 出生

八五ノ科
一南川島立三島中女子入女子

« LUNA

三中華書局

早稻 多 才 二 三 某 子 院 英 文 研 究 會

四年二月
同校中陰
病氣の爲

詩法、詩集、
LE、B、A、L、
により

四月 大邑兵 聯隊 入隊

一七三六

ビル
2
1
ニ
イ
1
ト
キ
ア
に
て
四
十
元

1991

(早稲田女子高等学舎)

續集

丰材
川
呈
信

[illegible]

「勾配」の走り書きが貼りつけられたノート

未発表詩七篇



おちい
り義
信
諸
翁

八邑
樹
な
化

12
年
12
日
27

13
年
1
月
7
日

歸^{ヨリ}山^{ヤマ}村

寒^{サムイ}ねと背^せ姿^{すがた}の林は続^{つづ}き
連^{れん}岸^{ぼう}は雪

よれよれの路はまた坂になり

鴉^{カラス}はあをあとと山^{ヤマ}蔭^{かげ}に群^{ぐん}がり

ああ少年の日の悲^{エレジー}歌^カが更生^{ふみが}へる
。

ゆふぐれよりも早く

はらはら何時かのやうに村は花を灯^{ひとも}し
村はまた何かを悲しむであらう

こんなにも林の多い路だつたかと

少年^{しょうねん}の日のふるすとは――
傷心のめたしであつた